

令和7年度 城山中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

「人間尊重の教育」を基盤として、心身ともに健康で、自主的・自律的に行動し、豊かな創造力と正しい判断力を身に付け、社会の変化に主体的に対応し、国際人として世界に貢献できる人間の育成を目指す。

(2) 具体目標

- 1 心身共に健康で勤労を尊ぶ生徒
- 2 基礎となる学力を身に付け、自ら学ぶ意欲をもつ生徒
- 3 礼儀正しく、責任を重んじ、心情豊かな生徒
- 4 主体的で創造性に富み、個性豊かな生徒
- 5 文化や伝統を尊重し、国際社会に貢献できる生徒

(3) 生徒の信条

「強く、賢く、美しく」

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

地域と密着した教育活動を展開しながら、互いに学び合い高め合う集団を形成し、全ての生徒が自己有用感を味わえる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 現行学習指導要領に基づき、学力の定着と向上を図るとともに、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成、目標に向かって粘り強く取り組むことが求められる活動等を通して、豊かな心と健やかな体を育む教育を推進する。 〈生徒〉
- (2) 互いに高め合い、学び合う協働的な同僚性の育成と、研修への積極的参加による指導力と専門性の向上、並びに働き方改革の推進により職員の負担軽減と業務の効率化を図る。 〈教職員〉
- (3) ○小中間の連携強化を図り義務教育の連続性の確保と、地域人材・地域教材を有効に活用し、地域貢献活動・地域交流活動等の教育活動を推進する。 〈小中一貫教育・地域学校園〉

【城山地域学校園教育ビジョン】 ～ともに学び合う城山っ子を育む地域学校園～
みんなで育てよう！ 自分を愛し、仲間を愛し、地球を愛する城山の子

4 教育課程編成の方針

関係法令、県教育振興基本計画2025、第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画や指導の重点に基づき、生徒が持続可能な社会の創り手となることができるように、学校教育を通して育むべき資質・能力を明確にし、それらを生徒が確実に身に付けることができるよう教科等の関連を図り、バランスの取れた教育課程の編成に努める。その際、地域の教育資源や外部指導者の活用及び魅力ある学校づくり地域協議会や保護者等と連携した、地域に根ざした豊かな体験活動の実施を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 一人一人のよさを認め励まし、称賛して更に伸ばす指導の充実 ○地域の教育力、小中連携を生かした教育活動の推進
・目標に向かって粘り強く取り組む力を育む教育活動の工夫（SDGsへの取組活用） ・組織的対応及び業務の効率化等による働き方改革の推進 ・全職員の学校経営参画意欲の向上

(2) 学習指導

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（宇都宮モデルの活用） ・学習目標の明確化と、定着のための振り返りの充実（学習計画表等の活用） ・学習評価による授業改善 ・学習改善の充実（指導と評価の一体化） ・ICTを活用した授業の充実 ○SDGs、主権者教育との関連を図った「宇都宮学」の推進

(3) 児童生徒指導

- ・常態的・先行的（プロアクティブ）生徒指導の充実 ・達成感や自己肯定感を高める指導の充実 ○認め合い助け合う集団づくりによるいじめ等問題行動の未然防止 ・生徒参画による校則の見直しを通じた規範意識の醸成

(4) 健康(体力・保健・食育・安全)

・体力向上を目指す工夫を凝らした教育活動の展開 ・健康相談や保健指導等を通じた健康の保持増進 ・望ましい食習慣の定着と家庭と連携した指導の充実 ○家庭・地域・行政と連携して実施する危険予測・回避能力育成のための指導の充実

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	<p>A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学力調査等の結果を分析・共有し、生徒の学習における課題を明確にした上で、自分の意見の根拠をきちんと述べて発表するなど、中身を深めた質の高い話し合い活動の機会を増やす。</p> <p>② ふるさと学習やあったか活動などの地域交流活動において、外部講師による授業や、自分の考えを書いたり話し合ったりする活動を効果的に取り入れることで、生徒の思考力・判断力・表現力等を高める。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は90%以上を目標としていたが、91.6%で1.6ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・数値指標は達成したが、具体的な取り組み①、②について、次年度も継続して実施していく。</p>
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	<p>A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①旅行・集団宿泊の行事や社会体験学習等で、自然・社会・人との関わりを通じた体験活動の充実を図り、感謝の気持ちや思いやりをもって生活する心を育成する。</p> <p>②道徳、学級活動の時間及び校外活動を中心に、互いに協働し、認め合う活動を意図的に取り入れることを通して、「ありがとう」という感謝の言葉が自然に出るような支持的雰囲気醸成する。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は93.7%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を0.8ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・日常生活における相互理解を大切に指導する。旅行・集団宿泊の行事や道徳、学級活動及びふるさと学習や城山あったか活動等で、互いに協働したり合意形成したりする活動を意図的に設定し、相互に認め合い思いやる心を育成する。</p>
	<p>A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・ 学校行事や部活動などでの困難を乗り越える体験を通して、「個々に見守る」「褒めて伸ばす」「一人一人の個性を伸ばす」指導を継続する。また、生徒には個々に応じた目標を設定させ、自己評価を行うことをサイクル化することを通して、生徒自身が達成感や自己有用感を高めることで、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組む態度を育む。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は87.4%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を1.6ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・生徒が主体的に取り組む機会や活動を意図的に設定し、「達成感や成就感を味わう」「他者貢献する」ことを通して、自己肯定感を高める。また、教職員が個々に応じて適切に指導・支援を行いながら、生徒が自ら目標を設定し、プロセスと結果を振り返る活動を充実させる。</p>
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 保健体育の授業において、補強運動を積極的に取り入れ体力の向上を図る。</p> <p>② すべての生徒が、栄養バランスを意識して給食を食べることができるようにする。</p>	B	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は90.6%となり、数値指標を上回った。前年度の肯定的回答と比較すると、教職員は6.3ポイント、保護者は1.1ポイント高くなった。</p>

		③ 交通安全教室、避難訓練等を通して、正しい意思決定や適切な行動選択ができるようにする。	【次年度の方針】 ・主な具体的な取組①～③について、次年度も継続して実施していく。また、保健体育の授業では、補強運動の強度を高めたり各単元の中で、様々な運動を行ったりして、特に全身持久力の向上を図る。給食指導については、家庭と協力したり、家庭科の授業の中で栄養バランスに関して実践的な活動を行ったりして苦手な物を少しでも食べるように指導をしていく。
1-(4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・学級活動(3)イ「社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成」、道徳C(12)「社会参画・公共の精神」の学習等を工夫し、自分の夢や進路等について考えさせ、学校行事やあったか活動、ボランティア活動等を通し地域や社会の一員として社会貢献への意欲を高めることにより、自己有用感を育む。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は90.9%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を3.1ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・職業に関する学習や社会体験学習等を通して、自身のよさや適性について考え、それを伸ばしたり生かしたりすることができるよう指導・支援を行う。 ・ふるさと学習、城山あったか活動を継続及び改善するとともに、地域学校園の小学校や地域のイベントなどにボランティアとして積極的に関わる機会を設ける。 ・数値指標を「生徒の肯定的回答90%以上」に修正する。
2-(1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 75%以上	・英語の授業や日常生活の中でALTを効果的に活用することで、生徒とALTがコミュニケーションを図る機会を増やすと共に、授業中に生徒同士で話す・聞く・書く・読む活動を充実させる。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は71.3%で数値目標を達成できなかった。 【次年度の方針】 ・英語の授業や日常生活の中でALTを効果的に活用することで、生徒とALTがコミュニケーションを図る機会を増やすと共に、授業中に生徒同士で話す・聞く・書く・読む活動を充実させる。
	A7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① ふるさと学習で学年ごとのテーマを設定し、歴史や地域文化財、産業、魅力等についての探究学習を行い、郷土の良さを知るとともに、愛情と誇りをもたせるようにする。 ② 「宇都宮学」の教科書を、さまざまな場面で活用し、地域理解を深めていく。 ③ 地域資源を活用したふるさと学習(宇都宮学)の取組や成果を、学校だよりやHPを活用して発信し、協力を得ていく。	【達成状況】 ・生徒の肯定的な回答は89.2%だった。数値指標には届かなかったが、昨年度を上回った。 ・ふるさと学習で生徒は、意欲的に探究活動を行い、一定の成果があったが、城山地区と宇都宮を関連付けさせることが十分でなかった。 【次年度の方針】 ・宇都宮学の副読本と関連付けてまとめの活動を行い、宇都宮の中での大谷を含めた城山地区の価値を考えさせる。 ・ふるさと学習の取り組みや成果の発信をさらに拡充する。
2-(2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	① 全ての教科で1人1台端末を授業に取り入れる方法を研究し、調べ学習やまとめの活動などに積極的に活用する。 ② 図書室の利用を教科等の年間指導計画に位置づけ、図書館司書と連携して図書等を学習に活用する機会を設ける。	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が80.8%で、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・図書館の利用も各教科において推進していく。 ・全ての教科で1人1台端末を積極的に活用する。

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 1年生の総合的な学習の時間において、市SDGsプラットフォームの基礎講座を受講し、SDGsについての正しい知識を身に付けさせ、主体的に取り組んでいくためのきっかけをつくる。 ② 各教科・領域の学習において、「持続可能な社会」の実現に向けて、目標の実現に向けた具体的な手立てを考えさせるとともに、実践していくための支援を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的な回答は77.3%だった。数値指標に届かず、昨年度の値からも下回った。 ・1学年の総合的な学習の時間で他の活動内容が多く、市SDGsプラットフォームの基礎講座を受講できなかった。そのため各教科・領域の授業での取り扱いに止まった。 【次年度の方針】 ・ふるさと学習のまとめの活動の中でSDGsの視点を取り入れる。 ・各教科・領域の学習において、「持続可能な社会」の内容を理解させる活動を多く取り入れ、目標実現の取り組みを考える活動を取り扱う。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・生徒指導部会や学年会議等において、特別な支援が必要な生徒の実態把握・情報共有に努める。また、特別支援学級に関わることやかがやきルームによる指導など、特別支援教育コーディネーターを中心に関係教職員や関係機関等と連携を図り、適切な支援を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は95.5%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を4.5ポイント下回った。 【次年度の方針】 ・生徒指導部会等の各種会議において、生徒の実態把握と情報共有に努める。また、特別支援教育推進委員会等で、ケース会議を実施し、個々に応じた適切な支援について検討する。 ・数値指標を「教職員の肯定的回答95%以上」に修正する。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上</p>	<p>① 生活の場面を含むすべての活動において、いじめが決して許されない行為であることを指導するとともに、生徒にとって心的物理的安心のある環境を整える。また、いじめに係る校内研修を充実するとともに、授業において道徳や学級活動のテーマとして取り上げ指導する。 ② 学校でのいじめに関する取組をHPに掲載したり、メール配信システムを利用し、家庭に周知したりすることで、保護者・地域へ啓発する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は97.2%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を2.3ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・学校生活を含むすべての活動において、いじめが決して許されない行為であることを指導する。 ・全教職員で情報共有と行動連携を図るとともに、学校での取組や学校いじめ防止基本方針を保護者地域に周知することを通して、生徒にとって心的物理的安心のある環境づくりに努める。 ・いじめに関する校内研修の充実を図る。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学級の係活動や学校行事等において、生徒が主体的に活動できる場や自己決定の場を設定し、個々に適切な指導や支援を行う。また、その過程や結果を認め励ます指導を行うことを通して、自己有用感を高めるとともに、集団への所属感や自己存在感を得られるようにする。 ② 校内教育支援センターにおいて、生徒個々の居場所を確保し、安心感をもって継続して登校できるよう支援する。</p>	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は97.2%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を1.9ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・日常生活や学校行事等で、個々に応じて活躍できる場面や役割を設定し、個々に見守り支援・指導することを充実させる。 ・生徒間でよさを発見したり認め合ったりする場面を増やすことで、自己有用感を育むとともに、学級や集団への「所属感」や「自己存在感」を得られるよう支援する。 ・学校や学級、集団とのつながりを絶やさぬよう、校内教育支援センターの柔軟な運用や一人一台端末を活用した学習支援等により、個々に応じて適切に支援する。 ・数値指標を「生徒の肯定的回答95%以上」に修正する。</p>

<p>3-(3) 外国人児童 生徒等への 適応支援の 充実</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいきいきとした雰 囲気である。 【数値指標】</p>	<p>① スモールステップ目標を設定し 「褒めて伸ばす指導」を推進するこ とで、生徒一人一人が自己肯定感 を持ち、学校生活に満足感を得られ るよう支援する。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的な回答は 96.2%で数値 指標を達成した。昨年度の数値も上回 った。 ・A16 教職員の肯定的な回答が昨年度を 上回ったことから、生徒に向き合う時間 の確保も図られたことがわかる。 ・A15 教職員の肯定的な回答が昨年度を 上回ったことから、教員同士の連携が図 れたことがわかる。 【次年度の方針】 ・自年度も生徒と関わる時間を多くと り、一人ひとりの悩みと向き合える時間 を確保する。 ・教育相談の充実を図る。</p>
<p>3-(4) 多様な教育 的ニーズへ の対応の強 化</p>	<p>生徒の肯定的回答 95%以上</p>	<p>② 教職員の業務改善を推進し、生徒 と向き合う時間を十分に確保でき るようにする。 ③ 多様な教育的ニーズに柔軟に対 応できるように、職員間でのコミュ ニケーションをしっかりととりな がら、チームで対応できるような体 制をつくる。</p>	<p>B</p>
<p>4-(1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業 や生徒にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「自分の考えを書いてまとめる 等、思考力・判断力・表現力の育成」 に重点を置き、さらに読解力を身に つける授業改善に積極的に取り組 む。また一人一授業を継続し、お互 いのアイデアを参考により良い授 業を目指していく。 ② 単元末テストや小テスト、朝の 学習を計画的に実施するとともに、 生徒がワークブック等に計画的に 取り組める方策を検討し、基礎・基 本の定着に重点を置く。 ③ 教科等の内容が社会につながっ ていることに気づかせ、学ぶ意義を 理解させるよう努める。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的な回答が 96.2%で、数値指 標を 6.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】 ・教職員の 1人1 授業等、今年度に行っ た取り組みを継続する。 ・朝の読書の時間に、週 2 回、学習の時 間を取り入れ、基礎・基本の定着を図る。</p>
<p>4-(2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力作 して業務に取り組んでい る。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学校の組織力を強化するために 適切な業務分担を行い、協力しなが ら業務に取り組むことで、教育活動 の充実を図る。 ② 適宜情報交換を行い、情報の共有 に努めるとともに、必要に応じて対 策会議を設け、組織的な対応が取れ るようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答は 90.9%で数 値指標を達成した。昨年度の数値も上回 った 【次年度の方針】 ・教職員の業務の効率化をさらに広げ、 教職員同士が対話できる体制を広げる。 ・情報が共有できるように業務や危機 発生時の連絡系統さらに充実させる。</p>
<p>4-(3) 学校におけ る働き方改 革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① 行事や業務の精選を図り、目的や 優先順位を明確にしながら、積極的 に業務の改善を行う。 ② 勤務時間に対する意識改革を進 め、ミライムによる出退勤時刻の入 力行うことで、勤務時間を意識した 働き方を実践する。 ③ 市部活動方針に基づき、休養日等 を適切に設定し、運用を徹底する。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的な回答は 81.8%で数 値指標を達成した。昨年度の数値も上回 った。 ・行事や業務の精選やデジタル化によ って効率化につながった。 【次年度の方針】 ・保護者へ連絡や提出文書など、でき る限りさくら連絡網を活用し、教職員 の負担を軽減していく。 ・校務分掌等、業務の集中を防ぎ、チ ームで校務を行う体制を拡充していく。</p>
<p>5-(1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】</p>	<p>① 小中一貫教育推進教員を中心に 活動内容や取組について見直し、目 的や教育効果を明確にしながら活 動の精選を図り、教職員の負担軽減 に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的な回答は 83.9%だっ た。 数値指標に届かず、昨年度の値からも 下回った。 ・業務の効率化を目的に小中連携の活</p>

	生徒の肯定的回答 90%以上	② 小中が連携した取組を各種たよりやHPを活用して積極的に情報発信する。	動をスリム化した。その結果、生徒が小中の関わりが減ったと感じたためと考える。 【次年度の方針】 ・小中連携の場が減ってもひとつひとつの活動で、小学生と関わりを持てるように取組を工夫する。 ・各種だよりやHPを活用し、情報発信に力を入れる。
5-(2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 90%以上	① 外部講師を招いての喫煙・飲酒・薬物乱用等の防止教室や、保健・安全・福祉等の講座を検討・実施する。 ② 地域連携教員と地域コーディネーターを中心に、魅力ある学校づくり地域協議会と連携し、外部人材の協力を得た活動の検討と人材の発掘に努め、城山ギャラリーに展示する。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的な回答は昨年度の数値を下回ったが、90.9%で数値指標を達成した。 ・各種講座で外部講師招聘や地域協議会の協力で行った城山未来塾運営など地域と連携して学校運営を行った。 【次年度の方針】 ・次年度は、さらに城山未来塾の啓発を行い、多くの生徒が運用できるようにする。
5-(3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進			
6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 95%以上	① 毎月の安全点検を確実に実施し、対処が必要な部分は速やかにかつ適切に処理する。 ② 災害・事故等緊急事態に適切に対応できるようにするため、職員間での連携・共通理解を徹底していく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は90.9%となり、数値指標を下回った。しかし、保護者において、前年度の数値を3.7ポイント上回っている。 【次年度の方針】 ・主な具体的な取組①、②について、今年度の内容を継続し、さらに安全点検の結果や地域の災害・事故等の情報共有を教職員間で行う。
6-(2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 全生徒に配付された1人1台端末について、全教職員が情報交換を図りながら、有効活用を努める。 ② 学校内の放送機器の使い方や職員室のPCの使い方について、全教職員が共有し、使用できるようにする。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は95.5%であり、数値目標を達成した。 【次年度の方針】 ・放送機器やICT関連の機器の使い方を全職員が分かるように、校内研修等を行う。
小・中学校、地域学校共通の特色・課題等	B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 95%以上 地域住民の肯定的回答 90%以上	① 地域学校園内の小学校や地域協議会、外部機関と連携をした「あいさつ運動」を継続するとともに、さらなる活性化を目指し工夫する。 ② 教職員が率先してあいさつをするとともに、生徒会を主体とする「あいさつ運動」を継続し、さらなる充実を図る。校外活動においても気持ちのよいあいさつを称賛し、一人一人があいさつをする意識を高める。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は96.9%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を1.1ポイント上回った。 ・地域住民の肯定的回答は100%であり、数値指標を達成した。 【次年度の方針】 ・教職員から率先してあいさつをすることで、日常のあいさつを大切にす環境づくりをする。 ・授業開始や終了のあいさつを大切に指導する。 ・地域学校園内の小学校や地域学校園と連携した「あいさつ運動」を継続する。 ・生徒会と連携し、学校内でのあいさつ運動を充実させる。
	B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】	① 生徒指導係と生徒会が連携し、生徒が主体的によりよい身だしなみについて考え、整えようとする意識を高められるよう、身だしなみを確認する取組を継続する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は94.4%であり、数値指標を達成した。また、昨年度を2.1ポイント下回った。 【次年度の方針】

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	生徒の肯定的回答 90%以上	<p>② 生徒指導係と生徒会が連携して校則等きまりの見直しを継続し、生徒が主体となってきまりや約束について考えたり決めたりすることで、自分たちのよりよい生活のために自らきまりやマナーを守っていくとすることを育む。</p> <p>③ ネット・SNSに係るトラブルの未然防止について日常から発達支持的指導を行うとともに、タブレット端末を適切に活用できるよう、学級活動や集会においてデジタルシティズンシップ教育の充実を図る。</p>	<p>・生徒指導係と生徒会が連携して校則等きまりの見直しを継続していく。生徒が主体となってきまりや約束について考えたり決めたりすることで、よりよく学校生活を送るために、自らきまりやマナーを守っていくとすることを育む。</p> <p>・ネット・SNSに係るトラブルの未然防止について、日常から発達支持的指導を行う。一人一台端末を適切に活用できるよう、学級活動や集会においてデジタルシティズンシップ教育の充実を図る。</p> <p>・道徳や学級活動に時間に、宇都宮市デジタルシティズンシップ教育年間指導計画に則した授業を実践する。</p> <p>・数値指標を「生徒の肯定的回答 95%以上」に修正する。</p>
	<p>B3 生徒は、手洗いやうがいを行ったり、健康の維持増進に気を配っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 保健体育委員会が中心となり、手洗いチェックやハンカチ所持率等の確認を実施するとともに、感染症拡大防止を図るため、全教職員が手洗い等の指導を徹底する。 ※保護者への情報発信に努める。</p> <p>② 保健だよりや学校ホームページ等を活用し、時期に応じた健康課題や生徒の活動の様子を情報発信する等、健康の維持増進の意識が高まるよう工夫する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 93.4%となり、数値指標を上回った。しかし、保護者の肯定的回答は、前年度と比較すると 9.3ポイント下回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・主な具体的な取り組み①、②を行う中で、生徒だけでなく保護者に対して、健康の維持増進や感染症対策に関する情報発信に努める。</p>
<p>B4 生徒は、朝の読書等により、読書の楽しさを味わっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 朝の読書に、落ち着いた雰囲気できちんと取り組むことができるようにする。</p> <p>② 図書委員による各学級でのブックトーク（本の紹介）、お話給食を年間予定に組み込み、実施していく。</p> <p>③ 掲示板等や図書館だよりを利用した本の紹介活動の充実を図り、生徒が積極的に読書の楽しさを味わえるように努めていく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答が 85.3%と数値目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・引き続き、図書館だよりや図書委員による本の紹介やお昼の校内放送において、お話給食を通して本の紹介を充実させるなど読書の楽しさを伝えていく。</p>	
<p>B5 地域を愛する心や地域に貢献しようとする態度が身についている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 城山あったか活動やふるさと学習等の体験を通して、地域社会の一員として自分にできることを考え主体的に活動しようとする態度を育てる。</p> <p>③ 城山あったか活動については、本校の特色ある活動のひとつであるが、教職員の負担が大きい現状があるため、来年度は内容や活動方法を変更して実施する。</p> <p>③ 生徒へ地域行事やボランティア活動参加の呼びかけや情報提供を行うとともに、保護者への情報発信に努める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的な回答は 90.2%で数値指標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 ・ふるさと学習では、生徒・教職員の負担を軽減するために今年度同様 1日 で実施する。それでもまとめの時間を十分確保する。</p> <p>・あったか活動では、負担軽減のため自治会でなく、学年ごとの活動とするが、持続可能を目的に活動場所等を見直す。</p> <p>・地域未来塾の見守りボランティアなど活動への呼びかけを地域に発信する。</p>	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【数値指標】

・全 25 の評価項目のうち、指標を上回り達成しているものは 21 項目であり、達成率は 84.0%となりました。昨年度 (80.0%) と比較して向上しており、学校教育活動全体として概ね満足のいく状況にあります。

・肯定的回答が 80%を超えている割合は、生徒が 25 項目中 22 項目 (88.0%)、教職員が 25 項目中 23 項目 (92.0%)、地域住民が全 10 項目 (100%) と高い水準を維持しています。保護者についても、前年度課題であった B3 (健康維持増進) への評価は改善が必要ですが、全体としては良好な傾向にあります。

【学校運営・地域連携】

○A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」については、生徒の肯定回答が 83.9%と目標 (90%) を下回りましたが、教職員は 95.5%と高い評価です。これは教職員の負担軽減のため活動の精選を図った影響と考えられますが、オンライン交流や小 6 中学校訪問、合唱コンクール参観などを通じた交流の質は維持されており、今後も「重点目標」に沿った効率的な連携を推進します。

○A9「持続可能な社会への関心」は生徒肯定回答が 77.3%と指標を上回りました。城山中学校地域協議会の協力による「ふるさと学習」や「城山あったか活動」に加え、大谷地区を英語で紹介する授業の継続など、本校の強みである地域資源を生かした教育が着実に根付いています。

【学習指導】

・A14「教職員は、分かる授業やきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」は、生徒肯定回答が 96.2%に達し、昨年度の課題を大きく克服しました。学力向上推進リーダー等の支援を受けた授業改善や、週 1 回の「朝の学習」による AI ドリル活用が習慣化した成果です。今後は「主体的・対話的で深い学び」の質をさらに高めるため、生徒自らが学習過程を振り返る活動の充実を図ります。

【児童生徒指導】

・A12「不登校を生まない学級経営」は、生徒肯定回答が 97.2%と極めて高い評価を得ました。生徒会主導の校則見直しや、生徒一人一人の特性を共通理解した支援・指導により、安心感のある環境づくりが進んでいます。

・学校関係者評価の提言を受け、いじめの実態把握を確実にするための「学校生活アンケート」や相談体制の多様化に引き続き注視していきます。

【健康・体力・安全】

・A4「生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」は生徒肯定回答 90.6%で指標を達成しました。広い通学区における自転車マナー向上に向け、地域と協力した通学路の安全確認や交通ルール啓発を継続します。

・B3「健康の維持増進」における保護者の肯定回答 (74.8%) は依然として課題であり、ホームページや保健だよりを通じた積極的な情報発信により、家庭・地域との啓発・協働を一層強化します。

【教職員の働き方】

・A16「勤務時間を意識して業務の効率化に取り組んでいる」は教職員肯定回答が 81.8%に向上し、意識改革と業務精選 (城山あったか活動実施方法の見直し等) が具体的に進展しています。今後も専門スタッフとの連携を深め、教育効果と働きやすさの両立を目指します。

7 学校関係者評価

・学校全体に活気を感じます。生徒同士、生徒と先生方との関係も楽しそうな雰囲気が伝わってきます。今年度も、学校内に留まらず、地域行事において生徒がボランティアスタッフとして積極的に尽力する姿を頼もしく拝見致しました。先生方の日頃からのご指導に心より感謝申し上げます。

・いじめ防止対策について、引き続き取り組んでほしい。

・生徒たちが活動に何事にも取り組んでいることは、ひとえに先生方のご指導のたまものと感謝しております。これからも子供たちが健全に生活できるよう、ご指導お願い致します。

・子ども達一人一人が素直に育っている様子が、朝のあいさつ等で伝わっています。先生方の子ども達に対する姿勢が伝わっている事と思っています。愛情あふれるご指導をいつもありがとうございます。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・アンケート及び学校関係者評価から、令和7年度の学校経営は概ね良好であり、教育目標、学校経営の理念、重点目標に沿った教育活動を推進できた。特に、長年の課題であった「主体的・対話的で深い学び」の充実や、ICT活用による「分かる授業」への転換が着実に成果として現れている。今後も地域・家庭と協力しながら学校教育目標のさらなる向上に向けて取り組むとともに、総合的な評価で記述した項目に重点を置き、次年度の方針を具体化する。

・学校関係者評価において、いじめ防止への組織的な対応や早期発見・早期解決に向けた取組が引き続き期待されている。いじめが決して許されない行為であることを全教育活動を通して指導するとともに、「学校生活アンケート」の定期実施や「心のアンケート」の活用により、いじめや性に関する悩みの早期把握に努める。また、全ての生徒を対象に、日々の挨拶や声かけ、授業、学校行事等あらゆる活動を通して、生徒が主体的に成長していく過程の支援を基盤とし、スクールカウンセラーや関係機関（市教育センター・警察等）と情報を共有できる体制を一層強化し、生徒・保護者への啓発を継続する。○学力向上については、学力向上推進リーダーや学力向上コーディネーターの助言を生かし、授業改善を地域学校園全体の共通実践事項へと広げる。AIドリルの活用等による基礎学力の定着を図りながら、家庭学習の習慣化に向けて学校園全体で取り組んでいく。

○本校の強みである地域資源を生かした教育「ふるさと学習」「城山あったか活動」「大谷石加工体験」等を継承し、生徒の自己有用感を高める。学校関係者評価での指摘にもあるように、目標に向かって根気強く活動する場面を意図的に設定し、本校の長年の課題である「児童生徒の粘り強さ」を育む取組を継続する。

・教職員の働き方改革については、「意識改革」と併せて、教職員アンケートの結果を重んじた「具体的業務の精選」を加速させる。持続可能な形態へと内容や方法を適正化し、教職員が生徒一人一人と向き合う時間を確保する。また、学校ホームページ等を活用し、教育活動の様子を積極的に発信・共有することで、開かれた学校づくりと保護者・地域との協働を推進していく。